

## Imaging Changes and Immune-Checkpoint Expression on T Cells in Bronchoalveolar Lavage Fluid from Patients with Pulmonary Sarcoidosis

古鉄, 泰彬

<https://hdl.handle.net/2324/4784448>

---

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : (c) 2021 by the authors. Licensee MDPI, Basel, Switzerland. This article is an open access article distributed under the terms and conditions of the Creative Commons Attribution (CC BY) license.

氏 名： 古鉄 泰彬

論文名： Imaging Changes and Immune-Checkpoint Expression on T Cells in  
Bronchoalveolar Lavage Fluid from Patients with Pulmonary Sarcoidosis

(肺サルコイドーシス患者における気管支肺胞洗浄液中のT細胞が発現する免疫  
チェックポイント分子と画像変化との関連性)

区 分： 甲

### 論 文 内 容 の 要 旨

サルコイドーシスは未知の免疫異常によって引き起こされる全身性の肉芽腫性疾患である。サルコイドーシスに最も罹患しやすい臓器は肺である。サルコイドーシスは自然軽快する場合が多いが、時として肺病変が重篤化する場合もある。肺に病変を有するサルコイドーシス患者に関して予後予測因子の詳細は依然として不明であるが、サルコイドーシスの病因に免疫チェックポイント分子が関与していることを示唆する報告がいくつかある。本研究において我々はサルコイドーシス患者を胸部CTの所見に基づき2群に分け、両群間で気管支肺胞洗浄液中(BALF)のT細胞が発現する免疫チェックポイント分子についてフローサイトメトリーを用いて比較した。結果、我々はCT所見が自然軽快した患者群ではCT所見が改善しなかった患者群と比較してBALF中におけるT細胞上のprogrammed cell death 1 (PD-1)とT cell immunoglobulin- and mucin-domain-containing molecule-3 (TIM-3)の発現が高いことを発見した。結論として、今回の実験からBALF中におけるT細胞上のPD-1とTIM-3の発現がサルコイドーシスの肺病変の予後予測因子となる可能性が示唆された。